



# 学校の詩

令和2年 3月17日  
大野城市立御陵中学校  
校長 藤井 浩彦

## 卒業式を終えて

先週金曜日、無事、第37回卒業証書授与式を挙行することができました。私は、式の中で次のような「式辞」を述べさせていただきました。

### 式 辞

本日、卒業証書授与式ができるかどうか最後の最後まで多くの方が不安に思っていたことだと思います。そんな中、卒業生の皆さんの願い、保護者の方の願い、先生方の願いが叶い、縮小という形ではあっても、皆さんとまた会えて、そして、この日を迎えられる心からうれしく思います。八十五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

先ほど、担任の先生から呼名をされたときの皆さんの返事…素敵でした。十五年分の感謝や成長そして、思いが、しっかりと伝わるものでした。今日この場に来られなかった保護者や家族の方、地域の方をはじめ多くの方にも見ていただきたかったと思います。

しかし、私は思います。

たとえ卒業証書授与式がどのような形になろうとも、皆さんが頑張ってきたことに変わりはありません。個人的なことを言わせていただけるなら、皆さんは私が校長となって初めての、そして、最高の卒業生なのです。皆さんには、顔を上げてもらいたい。胸を張ってもらいたい。そう思います。

皆さんとの出逢いは二年生のときからですが、特に三年生になってからの成長と頑張り、目を見張るものがありました。

生徒会役員やブロックリーダーだけでなく、三年生全員がリーダーとなって後輩達を練習のときから引っ張り、創り上げた五月の体育祭。どの競技にも演技にも全力を尽くす皆さんはどこまでも輝いていました。何より閉会式での最後の校歌。全員が肩を組み、涙を流しながら歌う姿に心から感動しました。

十月の文化祭。各クラス三十人にも満たない人数でのクラス合唱。そして八十数人での学年合唱。正直、「人数が少ないから厳しいのでは？」という予想に反して、人の心を激しく揺さぶる各クラスの素敵な合唱。そして最後の学年合唱は、三年生の皆さんの思いがしっかりとこもった迫力のある歌声に驚かされると同時に、ホールにいるすべての人を感動の渦に巻き込みました。この二つの例は皆さんの素晴らしさの一端でしかありません。

皆さんは、後輩達の「憧れ」です。私たちの「誇り」です。御陵中学校の新たな伝統を、歴史を、このかけがえのない仲間とともに創り上げました。皆さんは、「頑張ることの素晴らしさ」を教えてくださいました。これからいただいた命と多くの人や物への感謝の気持ちを忘れず、それぞれの道を精一杯歩いてください。特に、皆さんをいつも全力で愛し支えて下さった保護者の方への感謝は忘れないで下さい。

最後に保護者の皆様一言御挨拶申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。いま、様々な思いがあたりではないでしょうか。

これだけは言えます。皆様のお子様は、本当に素敵であるということです。私たち教職員一同、子ども達から、お金では買えない宝物をたくさんいただきました。それも保護者の皆様のご理解とご協力、そしてご苦勞のおかげだと思っております。お子様のこれからの健やかな成長を心から祈っております。今まで本当にありがとうございました。

それでは、卒業生の皆さんの限りない前途を祝福し、より一層の活躍を祈念して、式辞といたします。

令和二年三月十三日

大野城市立御陵中学校 校長 藤井 浩彦

式は、滞りなく進みました。式に参列している人すべてが整然と、それでいてなんだか温かい卒業式になったと思います。

卒業生がゆっくりと入場し着席をする。一同起立して「国歌斉唱」、着席してから「卒業証書

授与」・・・「3年1組・・・」と名前を担当の先生から呼ばれる。「はい！」という元気よくそして、魂のこもった返事をして立つ子どもたち。私は、一人目の「はい！」で思わず、グッときてしまいました。担任の先生の愛情溢れる思いのこもった呼名に、しっかりと応える子どもたち。15年分の感謝や成長、そして思いのこもった卒業生の皆さんの「はい！」と言って胸を張って立つ姿に、私は涙が出そうになりました。壇上で卒業生の皆さんの顔を見ながら、「あ～、この子たちは本当に頑張ったなあ。本当に素敵な子たちだよなあ」としみじみ感じました。卒業証書授与は、各クラス代表1名だけに行ったのですが、どの子も、立派な態度で臨んでくれました。

そして、「学校長式辞」。私は式辞を述べながら、どんどん胸が熱くなるのがわかりました。それは、子どもたち、そして保護者の方が顔を上げて真剣に聞いてくれている。中には、泣いている人がいる。何より、子どもたちの頑張っている姿を思い出したら、たまらなくなりました。この子たちとお別れするときがきたんだなあとしみじみ感じました。式辞をきちんと言わなければ・・・という気持ちに反して、私は涙をこらえるのが精一杯でした。

私の式辞のあとは、生徒会長、浜辺くんの「卒業生代表の言葉」。先生方への思い、保護者の方への思い、そして仲間への思いを、堂々と、そしてしみじみと語ってくれました。そのあと、卒業生全員で保護者の方へお礼の言葉。保護者の方の方を向いて「ありがとうございました！」という子どもたちの姿に何人もの保護者の方が涙されていました。中学校最後の「校歌斉唱」のあと、文化祭のときの学年合唱「決意」の映像がステージ上のスクリーンに流れ、素敵な歌声が響く中での退場・・・凛々しく立派な卒業生の姿は、本当に素敵でした。

各クラスに戻ってからは、担任の先生から一人一人卒業証書を授与されての子どもたちの一言。たくさんの思いの詰まった言葉に多くの方が涙していました。そして、担任の先生へのサプライズの歌など、各クラスそれぞれに、本当に素敵で温かい「学級活動」でした。担任の先生方も様々な場面で涙されていました。

学級活動が終わり、保護者の方の待つ外へ。みんな素敵な笑顔でたくさんの記念写真を撮っていました。卒業生も保護者の方も笑顔・笑顔・・・でした。

「縮小」という形ではありましたが、なんだか特別感のある素敵な一日になったのではと、私たち職員一同は思っています。卒業生の皆さんのそれぞれの道での活躍を心から祈るばかりです。

そういえば、今回の卒業式に大野城市教育委員会より代表で来られていた指導主事の山口先生（昨年度まで御笠の森小学校校長）が、式終了後にこんなことを私に話されました。

「“感動”というのは、決して人数ではないということをお陵中の卒業式を見て感じました。在校生もいない、来賓もいない、保護者も各卒業生につき1名のみ・・・さみしい雰囲気の中での卒業式になるのかと思ってましたが、こんなにも温かく感動的なものになるとは・・・先生方が、チームとなって一生懸命準備をされてきたこと、保護者の方も整然とマナーよく、そして温かく見守っていらっしゃる、そして何より、卒業式の練習もしていない子ども達の姿がとても素晴らしいこと・・・心から感動しました。ある意味、子ども達は“特別感のある素敵な卒業式”を味わうことができたのではないのでしょうか。私は、お陵中の卒業式を見て、“卒業式”というものを改めて考える意味でもとても勉強になりました。ありがとうございました！」

そう言って、お陵中をあとにされました。これまで一生懸命に子ども達の指導にあたり、今回心を込めて準備をすすめてくださった先生方を褒めていただいたこと、そして、何より子ども達のことを心から褒めていただいたことを、私は本当にうれしく思いました。

さあ、これからは現2年生と1年生が学校を引っ張っていくことになります。特に、2年生は4月からは最上級生です。今年の3年生を超える素敵な3年生になってほしいと思います。そして、1年生も「先輩」となります。4月までに自分ができることを考え、少しでも準備ができるようにしてほしいと願っています。

それにしても・・・

「学校には子どもたちがいなきゃ！やっぱり、とてもさみしい・・・」と毎日思う私でした。

校長 藤井浩彦